



# 新型コロナウイルス禍の 日本語学習支援の現場から

～ TNVN運営委員からの情報～

## 感染対策の徹底

新型コロナウイルス感染症が中国で2019年12月に発生、その後日本を始め世界各地で感染が急速に拡大、2020年3月11日WHOはパンデミックを宣言しました。

東京都では3月25日に都知事が緊急記者会見を行い、新型コロナウイルス感染が急速に拡大、感染経路の追えない感染者が増加、オーバーシュートの懸念から、平日の自宅勤務、週末の外出自粛要請が出されました。

政府は2020年4月7日から5月25日まで約1か月半、全国に緊急事態宣言を出しました。

宣言解除後も、基本的な感染防止策の徹底と継続が必要であるとして、「3つの密」を避けるため、人と人との距離の確保（ソーシャルディスタンス）、テレワークの実施、さらに不要不急の外出自粛、マスクの着用、手洗い、など「新しい生活様式」の定着に向けた対応を促しました。

東京都の新型コロナウイルス新規感染者数は5月下旬から6月上旬にかけて低い状態（3人～50人以下）にありましたが、7月に入ると再び増加状態になり、感染拡大が懸念されました。

## TNVNの対応から

TNVNはこの状況を踏まえ会議はZOOMを使用、7月31日に開催予定し

ていた「2020年度第1回運営委員会」を中止し、代えてメンバーに「新型コロナウイルスの影響と再開への対応・対策」等についてメールで尋ね回答（13名）を得ました。

振り返ってみると発症陽性者数が8月1日に472人と最大になっていました。

## 「新型コロナウイルスの影響と教室再開への対応・対策」(回答から) 回答から見えるコロナ禍での新たな課題

回答で意見が述べられていますが、地域の日本語教室は日本語学習支援の場であると共に対面で交流や相談などリアルでのコミュニケーションがとれることが必要です。

しかしリアルの場合 三密を避けるための対策が不可欠で、そのための会場確保と機材確保が必要となってきます。

今後 With Coronaの中ではインターネットでの日本語学習支援は欠かせない方法になり、新たな仕組み作りが必要になります。

### 1 教室の活動現状

新型コロナウイルスが日本で感染し始めた令和2年2月から3月に、殆どのボランティア日本語教室は感染防止のため活動を停止しました。

緊急事態宣言が解除されたあと、早いところは6月上旬・中旬から活動を始めた教室もありましたが多くの教室は夏

休みまで活動停止を決めていました。

団体・個人ベースで休止を補うためオンラインでの学習支援をしている教室もあります。

再開後は学習者が減少し、1/3~1/2程度に、またボランティアの退会も報告されています。

### 2 教室再開に向けた対策・対応

#### 1) 使用会場関係

教室として使用している会場は区などの公共施設の会議室等を借りている教室が多く、ボランティア日本語教室は施設等で決められた規則・条件に従い、感染防止対策と人数制限を行っています。

#### 2) 活動再開に向けた具体策

- ①会場のガイドラインに基づいて作成した注意書きを参加者に配布
- ②教室は換気、椅子・机の消毒
- ③参加者は検温、手洗い、手指等の消毒、マスク着用  
更には『健康観察票』記入や参加者名簿記入（住所、連絡先）等を実施
- ④活動が制限され、Zoomなどでリモート学習や会話

3) 「3密を避ける」対策（感染拡大を出来るだけ防ぐため密閉、密集、密接を避ける）

- ①教室の収容人数は使用する会場が

同じ場合、区の指針で定員が半減しています。

②机の配置を並行やはす向かい・コの字配置、机と机の間に距離を置くなど座る方法を工夫

③対面の場合にはマスク着用やフェイスシールドの着用

④窓やドアの開放し扇風機やエアコンで換気

4) 再開後のボランティアの活動継続は

①本人が高齢や持病、または家族等に病人や高齢者がいて教室活動を控えたい人

②家族への配慮からオンラインなら参加できるが、対面は不参加

③対面支援でなくオンライン支援が環境的技術的に難しい人は活動休止

④会の活動状況を周知し、共有できるように、全体メールで折々に報告

5) 再開後の学習者の増減は

①コロナの感染状況次第で今後も退会者が出る可能性

②失職して引越、再入国ができず、理由不明等で退会

③再開当初は約1/3に減少、徐々に増加傾向にあるが減少しない教室もあります。

④再開を期待している学習者は大勢

### 3 学習支援の方法に変化はありましたかZOOM、等のWebを使っでの学習支援

①オンラインでZOOM、LINE、SKYPE、MESSENGER、などのツールを学習者と支援者が共通に利用

②オンライン支援は初めての経験で時間に不安を抱く支援者もあり、人により時間枠を決めて継続実施

③オンラインでの日本語会話を試みた結果、Zoomなどのアプリはかなり使えるという感触を得た。飽くまでも対

面による会話が基本と考えているが、今後は対面とリモートの組み合わせを考えている。

④ZOOMやラインのビデオ通話を使用しているが、学習者全員が同じ環境ではないため、会としては強制しない。

ラインを通じて新規情報のお知らせや、学習者からの相談にも乗っている。

⑤支援者の中にはZoomやLineで支援しているが学習方法に変化はない。リモート支援はひとつの方法だが、全員は不可能

会としては活動管理が難しそうなので、今のところは個人対応という位置づけ。

⑥対面授業の要望が多く、オンラインでは目的である国際交流ができない。オンライン授業の運営は大幅な負担増となり困難である。

### 4 With Corona時代の「新しい日本語学習支援の活動」はどうなるか。

①「新しい日本語学習支援の活動」に関して、対面での活動ができない場合、オンラインによる支援が増えオンラインでの活動に移行せざるを得ない。

②対面での学習が優先で、オンライン学習は補助的な方法となるように想像される。

ただ、こんな時代だからこそ学習者との繋がりや心のケア等を考えると、直接会って支援ができるのが望ましい。③難しい問題で、与えられた状況のもと、できる人ができる形で無理なくボランティアをする、という大前提に立ち、いかなる時も対処していこうと思う。

④Coronaを恐れて活動しないという選択肢もあるが、Coronaの恐ろしさを正しく認識しその感染から身を守る対策をしっかり行い、支援を希望する

方々、学習を熱望する方々の期待に応じて支援・学習の場を提供し、モチベーションを維持することが大事

### 5 TNVNはネットワークとして新しい連携・繋がり・あり方やこれまでの活動継続について

①状況に即した活動が必要になると思いますが、具体的には今までどおりTNVNや会員から情報発信をして頂き、共有できればと考えている。

②他のボランティア団体の状況を知る事は参考にもなる。

③リモート会議等新しい手法の検討、部分的導入は生じるであろうが、対面での意思疎通に勝るものはないもの思われる。(回答者の意見であり、TNVNとしてどの様にするかは今後の課題です。)

④TNVNのHPにwith Corona時代のコーナーやニュースレターでコロナの新時代における活動に関してのニュースを会員に通知するなどしばしば情報発信をしてほしい。

⑤zoom・メール等で情報を交換・共有することにより、活動の継続を

### 学習者の問合せから

TNVNのHP「ボランティア日本語教室ガイド」の「お問合せ」欄から学習希望のメール問合せ件数を昨年とコロナ渦の今年を次表で比較します。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で学習希望の問合せは、3月の後半から4月後半の緊急事態宣言での外出自粛の影響で大幅に減少し、6月以降は解除されているが昨年並みには戻っていない。

しかし学習の機会を待ち望み、教室が再開しているかの問合せも多くなっています。

それへの回答例を挙げます。

①新型コロナ禍のため、教室は12月末までお休みです。近くになりました

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
2019年	131	106	112	166	136	106	175	112	121
2020年	150	77	31	9	33	102	69	52	78

ら、もう一度ご連絡ください。

②私どもの教室は、新型コロナウイルスの影響を受け、10月末まで休講となっております。11月以降の授業に関しましては、10月8日（木）開催予定のミーティングで決定します。恐れ

入りますが、それまで、ご回答をお待ち下さい。

③明日、直接、教室に来てくださいますか。教室のホームページを見てください。

ただし、コロナのため、ボランティ

アの先生がとても少ないので、ちょうどいいグループが見つかるかどうかは、わかりません。必ずマスクをしてきてください。

（文責 梶村 勝利）

# office@tnvn.jpとhiroba@tnvn.jp についてのご案内

今年は、新型コロナウイルス感染拡大によって、東京日本語ボランティア・ネットワークの定期総会が中止になり、不本意ながらWEB総会をお願いする状況になりましたことご承知の通りです。

WEB総会開催に際し、会員各位とTNVN事務局間の連絡手段が、TNVN発足以来今日に至るまで、公式には、郵便又は電話を基本として運営されて来たことがネックになりました。

携帯電話・スマホ・パソコンの普及によって、会員各位とTNVNスタッフ間でメールを利用した連絡は行われて来ましたが、TNVNからは、スタッフの個人メールアドレスを利用した補助的な手段でした。それでも、新型コロナウイルス感染拡大以前は、週一回の事務局当番で、必要な連絡事項はスタッフ間で共有でき、TNVNの業務に支障は生じませんでした。

ところが、新型コロナウイルス感染が拡大し、感染予防には三密を避けるという指針が出て、会議や打合せなどが制限され、スタッフ間の連絡はメールが主になり、会員各位への連絡もメールの利用を主にせざるを得なくなりました。

## office@tnvn.jpについて

メール利用にあたり、会員各位がTNVNからの連絡と明確に分かるように、TNVN事務局のメールアドレスを作りました。それが110号でご案内したoffice@tnvn.jpです。又、連絡ミスが生じないように、会員各位のメールアドレスをWEB

総会時にお尋ねしました。今後は、TNVNとしてお送りするメールはoffice@tnvn.jpから送信します。ご理解よろしくお願ひします。又、会員各位からTNVNへの連絡もoffice@tnvn.jpをご利用いただきたいと思います。尚、ホームページで、各教室への問合せに設定しているwebadmin@tnvn.jpは変更ありません。

## hiroba@tnvn.jpについて

緊急事態宣言解除後、一部の教室は活動を再開しましたが、多くのボランティア日本語教室の活動は休止が続いています。そうした状況を踏まえ、会員間で情報や意見交換をする場として、メーリングリストhiroba@tnvn.jpを設けました。参加希望の可否についてはWEB総会時の返信メールでお尋ねしました。現在37団体が参加登録されています。hiroba@tnvn.jpはメーリングリストですので、登録されたメールアドレス間でしか送受信出来ません。会員であれば何時でも参加出来ますので、ご希望の会員は事務局までお知らせ下さい。

新型コロナウイルス感染拡大に伴ってテレワークやオンライン会議が拡がり、TNVNでも、役員・スタッフ会議は、原則、オンラインで行なっています。更に、ネットワークニュースの編集や校正も、110号から、一堂に会しての作業は止めて、全てインターネットを利用して行っています。

新型コロナウイルス感染収束までは何かと不便を強いられませんが、会員各位への連絡も、原則、メールを利用する事情を改めてご理解いただきご協力をお願いします。

## お知らせ

2020年10月1日、一般財団法人東京都つながり創生財団が設立されました。この財団は、(1) 多文化共生社会づくり：在住外国人支援、(2) 共助社会づくり：ボランティア文化の定着と、町会・自治会を中心とした地域コミュニティの活性化を担います。

設立と同時に14言語に対応した「東京都多言語相談ナビ」を開設しました。行政機関などに相談する際、遠隔通訳支援なども行っています。電話番号は03-6258-1227です。詳しくはホームページ<https://www.tokyo-tsunagari.or.jp/>をご覧ください。

# 大変な今だからこそ、 心のつながりを。

## ～リモートのその後・大混乱の 日本語と金子～

日本語教師 **金子広幸**



2008年3月14日61号に連載を仰せつかってから12年の歳月がたちました。この紙面では日本語やその周辺のいろいろなことを一緒に考えていただく機会にしたいと執筆してまいりました。読者、編集の皆さん、ご支援をありがとうございます。

今回はコロナ禍の社会の問題を扱います。「うんうん！」とうなずきながら読んでいただけたらと思います。

前号で、リモートについてお話ししました。その春学期が終わりましたので、クラスに参加した大学の学生たちの様子をお知らせしましょう。

一部の学生が日本に入国できず、彼らにとっては不便な日本時間でのオンライン参加となった人がたくさんいました。始まったばかりの秋学期でも、大学院なども含めて9割が海外からの参加です。この辺は全く好転していません。

学期を通して、対面授業が一切できなかったのが、授業は全てズーム、テスト・宿題はオンライン化、個人面談もオンラインセッションとなりました。

た。対面では可能でも、リモートではできないことがあり、カリキュラムやアプローチ（教え方）を抜本的に変えなければなりませんでした。

例えば、

### ●初級の「これ・それ・あれ」

3次元の環境がないと実感が難しいのですが、さすがに2次元の画面上でこの感覚を見せながら導入は出来ませんでした。私は自分の家のノート型パソコンを持ち上げて、家の中を歩き回って導入しました。学生は喜んでいましたけど。特に「それ」の概念が難しかったです。このままりモートの時代が続くと「それ」の概念は無くなってしまいかも？

### ●敬語クラスの面接練習

設定そのものを変えて「オンライン面接」のシミュレーションとしました。お辞儀や服装よりも、しっかりカメラを見て、短い時間でどのようにアピールするかについて技を競うことになりました。

海外にいる人に教科書など教材が手元に届かない場合どうするかが大きな課題でした。例えばアメリカなどには、郵便物は送れません。せっかくその人が教科書を注文しても、クラスが終わる1週間前に届いたりするのです。今後は書籍のオンライン化が進められるかもしれませんが。

もちろんオンラインで便利な側面もありました。グーグルフォームなど

で作ったテストは、自動採点の機能が付いています。オンライン上にテスト問題を作る作業は大変でしたが、テストさえ済んでしまえば、採点は自動、結果はグラフ化され、自動分析が行われます。

教師間の打ち合わせも無論オンライン。対面時には、我々はクラスの様子や運営について同僚達とお茶を飲みながらブレインストーミングしていたのですが、それがどんなに我々学習者を支えるもの同士の癒す力になっていたのか実感しました。「あの学生さんどうしてあげたらいいかなあ」と知恵を絞っていたのです。

授業を担当させてもらった立場から言うと、学生たちは不満もあったかもしれませんが、クラスに熱心に参加・一生懸命に勉強していたように思います。遅刻や欠席、宿題の未提出などは通常の学期よりかなり少なかったです。こんな時だからしっかり勉強しようと思ったのかもしれませんが、これも不憫なことの上ありませんでした（泣）。

そして、大変厳しい現実があります。外国人留学生も含めた8割以上の全国の大学生が、「学費に見合った授業が行われていない」と主張していることです。当然ですね。我々も勉強・研鑽・練習を重ね、リモートのクラス運営にもずいぶん慣れましたが、や

はりまごまごしてしまうんです。それを学生たちは見ていたんだと思います。

また、社会問題化した一面もあります。大学などでは、交換留学生のクラスが多く閉鎖され、私の同業者たちには、この学年の途中の秋学期から、収入源を失った人たちが大勢います。「日本からの送り出しができないからその受け入れもできない、コロナが長引けば正規の留学生の受け入れもできないかもしれない、となるとクラスを閉鎖するしかない」というのが大学の理論です。

日本語学校では、20年4月に入学できた人たちは、9月以降もオンラインでの授業に参加しています。通常9月に入学してくる学生も多数いる日本語学校は、海外からの渡航がまだ制限されているので、学生が激減、倒産してしまうところも増えています。

日本社会を根底から支えている日本語教育の、現状の労働環境を、多くの日本社会の人に知ってもらいたいと私は強く願っています。

1学期終えてみると、今後の「日本語を教える」「日本語で支援する」形が大きく変わっていくだろうと予想されます。今こそ私たちの関わり方を考えてみる好機ですね。

まず、コロナの時代になってこそ、孤立しやすい外国人市民への寄り添いが求められるのではないのでしょうか。

私たち日本人と同じように、外国人市民も外出を制限しています。でも働いて食べていかなければなりません。豊島区のおいしい中華屋さんの外国人家族のお話です。店の経営は大変。でも娘さんたちは日本の学校に通っているの、簡単に帰国してしまうということができない、と悩んでいました。それでも来てくれるお客さんを信

じて、ソーシャルディスタンスを考えて店を改装。今は少しずつお客さんが戻ってきて嬉しい、と言っていました。

また、ある市のボランティア団体では、日本語の支援だけでなく、生活の支援にも取り組み始めました。60代の夫婦2人の家庭なので、そこに一緒に住んでくれる外国の若い夫婦を探している、とおっしゃる方にこの間お話を伺いました。「いろいろ助けてもらえるといいな。私たちは日本語しかできないから、日本語の支援もできるしね」とも。

また、私は今期、「コロナ時代だからこそ!」と果敢に門戸を叩き、結果を得た外国人を多数支援しました。「金子クラスはアフターサービスOK」として、金子もボランティアで修了者・卒業者から相談を受け、また情報も得ています。現役の敬語クラスでは、日本で就職活動をする人たちもいました。この人たちの中に、いつもと違うリクルートのタイミングを利用、クラスで練習したオンライン面接などを駆使、見事内定を獲得した人が多数いるのです。コロナでスケジュールも立ちにくいのか、企業は時期をあまり決めないで採用活動しているようなのです。「いつもと違う」からこそ、これが好機、ということですよ。

よく考えると、東京オリンピックも「いつもと違う、新しい形のオリンピック」にできるかもしれません。

「こうなったら、どうしようか」。もうこの世にはいない祖母らや父に、思わず携帯で電話して聞いてみようかなと思う瞬間がこの半年には何度もありました。

さしあたって私は、リモートの日本語クラスの技術をしっかり磨き、日本語を学びたい学生の力になります。2019年からNHK Worldの「しごとのにほんご (Easy Japanese for Work)」に出演させてもらっていますが、ここでも日本社会で働く人の力になりたいです。

同業者たちとオンラインでの対話を増やしていこうと思っています。さらに、地域支援を続けられる皆さんのお力になれたらと考えています。簡単なことしかご紹介できませんが、地域での支援のオンライン化のご希望があったら、どうぞ私をお召しください。地域支援の場所からの講演依頼を、この半年でもお受けしてきましたが、困難な状況下、講演を開いてくださる皆さんの為にも、何か手が尽くせたらと考えています。

これをお読みの皆さんも「いつもと違う」今だからこそ、何ができるか考えてみませんか。



# 文化庁と出入国在留管理庁から発表されました！

『在留支援のためのやさしい日本語ガイドライン』（2020年8月）

『ガイドライン』は、ボランティア日本語教室での支援にも役立ちます。  
法務省、文化庁のホームページをご覧ください。

## ● 第4章 やさしい日本語の変換例



実際の書き換え例を紹介します。  
ステップ1、ステップ2で気を付けるポイントを解説します。



### 変換例

### 住所の届出

#### 元の文章

新規の上陸の許可を受けて日本に入国した場合  
在留カードが交付された方（後日交付となった方を含む。）は、住所を定めた日から14日以内に、在留カード（後日交付となった方はパスポート）をお持ちになってお住まいの市町村において転入の届出をする必要があります。ご家族と一緒に日本で暮らす方については、ご家族の関係（続柄）を証明する文書（本国の政府などの公的機関が発行したもので、婚姻証明書、出生証明書など）が必要となります。

#### ステップ 1

#### 日本人にわかりやすい文章



- ・伝えたいことを整理して、情報を取捨選択する
- ・3つ以上のことを言うときは箇条書きを使う



新規の上陸許可を受けて日本に入国した場合

- ・住所を定めた日から14日以内に市区町村に転入の届出が必要です。
- ・届出の際は在留カード（後日交付の人はパスポート）を持参してください。
- ・家族と一緒に暮らす場合は、婚姻証明書や出生証明書などの家族関係を証明する公的な文書も必要です。

#### ステップ 2

#### 外国人にもわかりやすい文章



- ・簡単な言葉を使う(難しい言葉を使わない)
- ・漢字の量に注意して、ふりがなをつける



にほん じゅうしょ き  
日本の住所が決まったとき

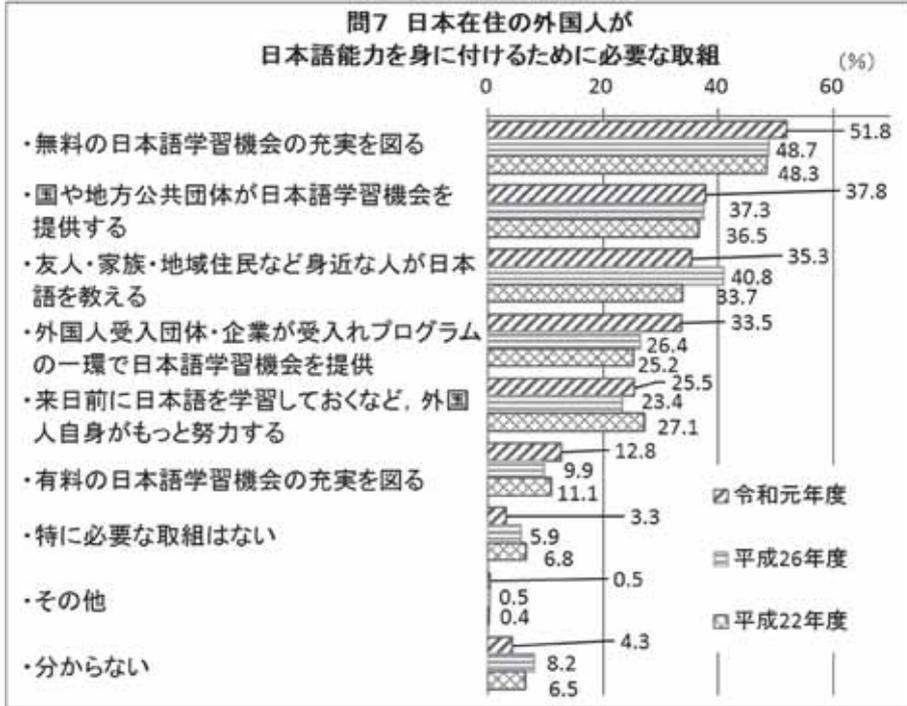
- じゅうしょ き かいない じゅうしょ まち やくしょ てんにゅうとどけ だ
- ・住所が決まってから14日以内に、住所がある町の役所に「転入届」を出します。

- やくしょ ざいりゅう も
- ・役所には、パスポートか「在留カード」を持っていきます。

- にほんじん かぞく す ひと かぞく かんけい しよるい も
- ・日本人ではない家族と住む人は、家族の関係がわかる書類も持っていきます。

# 報道発表 令和元年度「国語に関する世論調査」の結果について

日本語ボランティアが関心を持った項目を取り上げました。

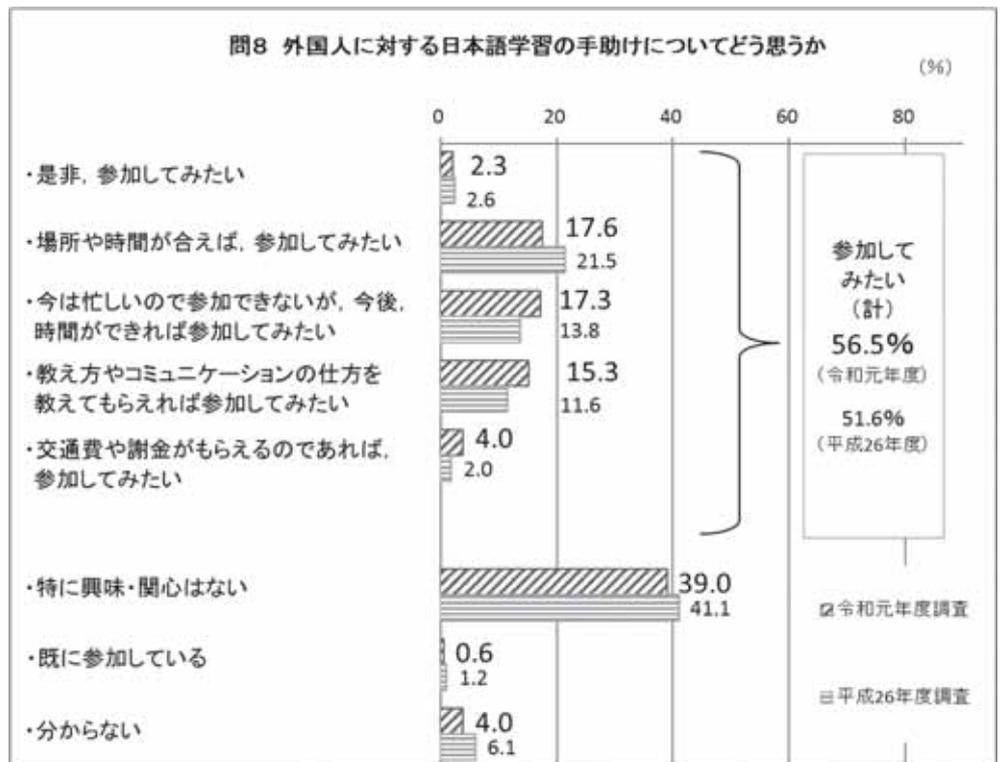


「無料の日本語学習機会（例：ボランティアによる日本語教室等）の充実を図る」が1位（51.8%）、2位（37.8%）は「国や地方公共団体が日本語学習機会を提供する」になっています。日本語ボランティアとしては、「国や地方公共団体が、プロの日本語教師による日本語学習機会を無料で提供する」が一番必要な取組だと思います。そして、行政の足りないところをボランティアが補うというのが望ましい在り方だと考えています。

一方「特に必要な取り組みはない」との回答は、3.3%という低い数字になっており、アンケートに回答した方々が「言語は、生活するために欠かせないものであり、日本語習得のために様々な取り組みが必要」と考えていることが分かります。

「是非、参加してみたい」は少数ですが、「場所や時間が合えば」など条件があるものの、「参加してみたい」を合わせると半数以上（56.5%）になります。このグラフには現れていませんが、参加してみたいという若い人が多いです。今後の日本語ボランティア活動に期待が持てます。

★令和元年度「国語に関する世論調査」（令和2年3月調査）は、文化庁のホームページをご覧ください。





### 『上海の名医による感染症対策』 紹介と感想

中国の出版社が中国で発行している月刊誌の「人民中国」の日本語版に面白い記事があった。表記のタイトルに続いて5月号では「張文宏教授が教える家庭の感染症予防」というタイトルが出ている。6月号は「外出時の」、7月号は「出社と受診の際の」感染症予防が書かれている。

予防策は直ぐ実行したいこともあるし、少し厳しいと思うこともある。外出時は次のもの。

咳やくしゃみをする際は、ティッシュや肘で鼻と口を完全に覆う。共有設備に手を触れない。エレベーターではマスクをする。ボタンを押す時は、直接指で押さない。指で押したら直ぐに手を洗う。エレベーターの利用回数を減らし、低層階は階段を使う。帰宅後に直ぐ風呂に入る。感染率が減る。

家庭予防策の「家に体温計、使い捨て医療用マスク、粉塵（ふんじん一ちりのこと）用マスク、家庭用消毒用品などを置いてください」という意見については、マスクについて疑問を持った。日本の専門家は無理に医療用でなくてもいいと言っている。また、非医療の不織布マスクを勧める人が多い。綿のマスクは防止力が少ないようだ。「不織布99%ウイルス防止」と印刷されているものを私は西友で買った。印刷されていないものより少し高いが、それほどの高価では無い。「測定：米国ネルソン研究所」と印刷されているので信用できる。また洗濯するとどのマスクの場合でもウイルス防止力が減るので、その点ご注意ください。

またマスクについては専門家の堀成美氏の「外で歩行中はマスク不要。よほど込み合う場所は別」との文藝春秋11月号寄稿記事を読み、私は早速実行している。

床呂英一

### Column 「迷いに迷って」

2020年2月3日、友人たちと三浦半島の二子山（208m）へハイキングに行きました。山頂でのんびり昼食を食べ、横須賀市の田浦梅林へ下りてくると、東京湾に大きなクルーズ船が浮かんでいました。「山もいいけど豪華クルーズもいいわね」と口々に言いました。それが「ダイヤモンド・プリンセス号」だったのです。コロナ禍の始まりでした。

事態はあれよあれよという間に悪い方へ動いていきました。当初は「インフルエンザのほう怖い」とコロナを侮っていましたが、3月から日本語教室を休会にしました。4月7日東京都に緊急事態宣言が発令され、教室活動ができなくなりました。

6月第2週から、施設が使えるようになった時は、何の迷いもなく教室を再開

しました。学習者が減ることは予想していましたが、気温が上がれば、インフルのようにコロナは下火になるだろうと言う考えは甘かったです。7月24日に夏休みを迎えた時は感染する・させるリスクがなくなったと、正直ほっとしました。

生徒さんたちとは「9月にまた会いましょう」と言って夏休みに入りましたが、9月から再開したものでどうか、迷いに迷い、胃が痛みました。8月下旬のスタッフとのリモートミーティングで、9月休会を決めました。9月下旬、対面でミーティングを持ち、10月以降の活動について話し合いました。12月まで部屋の予約も済んでいましたが、筆者の気が足りず、12月までの休会を決めました。コロナ収束の希望を持って、再開できる日が来ることを願う毎日です。(OM)

東京日本語ボランティア・ネットワーク (TNVN) は都内のボランティア日本語教室のネットワークで、会費と有志による寄付により運営している民間の団体です。会員は日本語学習支援活動を通して、言葉のため日常生活に不自由を感じている外国人を、隣人として支援しています。又、TNVNは会員への情報提供・会員相互の情報交換、および外部との情報発信を行い、活動の活性化を図ります。

### 東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局の活動

◆日時：毎週金曜日午後2時～4時  
第5金曜日／休み

#### ◆場所

東京ボランティア・市民活動センター  
JR、地下鉄(東西線・有楽町線・南北線・大江戸線-出口B2b) 飯田橋駅下車  
セントラルプラザビル 10F ロビー

#### ◆日本語ボランティア相談窓口

日本語ボランティアの活動についてのご相談・ご質問にベテランスタッフがお応えしています。メール・電話でご確認の上、気軽にお越し下さい。また、メールでのお問い合わせにもお応えしています。ご意見もお待ちしています。

〒162-0823

東京都新宿区神楽河岸1-1

東京ボランティア・市民活動センター  
メールボックス No.4

◆TEL：03-3235-1171

(呼出：金曜日活動時間帯のみ)

◆FAX：03-3235-0050

◆E-mail：webadmin@tnvn.jp

◆URL：http://www.tnvn.jp/

#### ◆郵便局払込

口座番号：00100-1-719259

加入者名東京日本語ボランティア・ネットワーク

#### ◆会員数 (2020年10月1日現在)

正会員：88団体

個人協力会員：16名

賛助会員：3団体

◆編集／岡田 美奈子、小川 伶子、梶村 勝利、佐久間 雅子、神 歩、床呂 英一、林川 玲子、山内 真理

◆レイアウト／美巧社